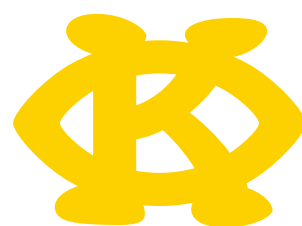




**KEIO  
RUGBY**



## 法人概要

一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部

2018年7月現在



## ごあいさつ



一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部  
代表理事 中崎 修

1899(明治32)年、英国ケンブリッジ大出身の英語教師E・B・クラーク氏が、慶應義塾の学生たちにラグビーを伝えたのが、慶應義塾體育會蹴球部の始まりであり、日本ラグビーの発祥に位置づけられています。来年に迫る2019年ラグビーワールドカップ日本大会の年に、我々は創部120年を迎えます。塾蹴球部はルーツ校として、低迷期を経験しつつも、三度の大学日本一を成し遂げ、2017年度まで20回連続の大学選手権出場を果たして参りました。部員たちは日々の切磋琢磨を通し、慶應義塾の創立者である福澤諭吉先生が残した自他の尊厳を守り心身の独立を全うする「独立自尊」という基本精神、文武両道に繋がる「先ず獣身を成して後に人心を養え」などの教えをグラウンドの内外で希求して参りました。一方で、大学ラグビーのみならず、日本、世界のラグビーは、かつては想像できなかったような変革の時代を迎えています。ルール改正や制度の変更で、より激しく、より速いプレーが増え、選手の大型化、競技の高度化は加速度的に進みました。各校はプロフェッショナルの専属コーチによる指導を進め、科学的なトレーニングや専門的な栄養学に基づく食事、綿密なデータ分析などは、今や当たり前の時代となりました。こうした荒波に対応するため、慶應義塾體育會蹴球部OB会(黒黄会・組織人員約1300名)は平成30年3月1日、「一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部」を設立いたしました。変革の時代に対応しながら、大学ラグビー部を日本一にすることはもとより、多くの優秀な文武両道の人材をこれからも世に輩出することを目的としています。法人設立により、これまでのOB会費や学生の部費に加えて、多くの方々からのご支援による資金を選手強化や環境整備に生かすとともに、組織のガバナンスを強化して参ります。慶應義塾ならではの精神を保ち続けながら、科学的トレーニングとグローバルな視点での強化を実行し、日本一を目指すためには、これまで以上に多くの方々のご理解とご支援が必要です。今回、皆様方におかれましては設立趣旨をご理解のうえ、ご寄附、ご協賛のご協力を賜りたくお願い申し上げます。尚、皆様のご支援ご協力は、必ずや当法人の目的遂行の為に有効に管理・活用させて頂くことをお約束いたします。





## 概要

|        |                                        |       |  |
|--------|----------------------------------------|-------|--|
| 社 名    | 一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部                       |       |  |
| 英文社名   | KEIO RUGBY CLUB                        |       |  |
| 設 立 日  | 2018年3月1日                              |       |  |
| 所 在 地  | 〒108-8345 東京都港区三田2-15-45<br>慶應義塾体育会本部内 |       |  |
| オ フィ ス | 東京都港区高輪 3-25-29<br>THE SITE ROOM-15    |       |  |
| 代表理事   | 中崎 修                                   |       |  |
| 専務理事   | 川上 純一                                  | 市瀬 豊和 |  |
| 理 事    | 小茂鳥 潤                                  | 稲垣 純一 |  |
|        | 高橋 明良                                  | 馬場 靖  |  |
|        | 玉塚 元一                                  | 吉澤 英雄 |  |
|        | 渡瀬 裕司                                  | 中野 忠幸 |  |
|        | 油山 哲也                                  | 志村 良輔 |  |
|        | 柿沼 岳史                                  | 岡部 雅之 |  |
|        | 和田 康二                                  | 廣瀬 俊朗 |  |
| 監 事    | 田治 之佳                                  | 間宮 光健 |  |
| 顧 問    | 松井 誠司                                  |       |  |
| 社 員 数  | 42名(平成30年7月現在)                         |       |  |

---

|      |                      |
|------|----------------------|
| 事業予定 | フルタイムコーチの雇用          |
|      | 新クラブハウスの建設           |
|      | グラウンド人工芝張替           |
|      | 創部120周年事業            |
|      | 港北区スポーツ未来授業          |
|      | 地域型有料ラグビーアカデミー       |
|      | スポーツキャンパス構想プロジェクトの推進 |
|      | ヘルスデータ等の収集・分析        |
|      | ビジネスフォーラムの運営         |
|      | KRC会(賛助会)の運営         |

# 社団法人 設立の目的

私たちが掲げる「スポーツを通じた経済の活性化」、「社会との共存共栄」、「リーダーシップのある人材輩出による社会への貢献」の三つのビジョンを実現するためには、移り変わる社会のニーズを踏まえながら、一貫教育校を含む慶應ラグビー全体の強化と人材育成を進める必要があると考えております。強化において人材獲得・良質な指導体制の構築・トレーニング環境の充実等を支援し、大学スポーツの活性化を目指します。そして、チーム力向上とともに私たちが拘るのは、一人ひとりのリーダーシップ醸成、柔軟な思考を持つグローバル人材の育成です。そのためにも、大学との共同研究、社会貢献・地域貢献活動等の事業を充実させ、グラウンド内外で慶應ラグビーと社会との接点をより深めていきます。慶應ラグビーに関わるすべてのステークホルダーに感謝し、皆様が「応援して良かった」と心から感じていただけるような組織に進化させて参ります。



慶應ラグビー倶楽部

日本ラグビー界発展へ寄与

慶應ラグビーの強化

社会貢献





## 社会との 共存共栄

テーマ 社会貢献  
地域社会との交流

### 慶應ラグビー倶楽部として取り組む意義

日本ラグビーのルーツ校として、地域や社会の皆様、ファンの皆様とともに新たな時代に対応した学生スポーツの範を示していきたい。

### 社会からの期待

ラグビースクールなどを通して次世代の選手育成に向けた取り組みを強化し、学生ラグビー、ひいては日本ラグビーの強化につなげていきたい。学生などのボランティア活動を通して、拠点とする日吉の安全や環境改善に寄与していきたい。



慶應ラグビー倶楽部 専務理事  
株式会社 山 櫻 代表取締役社長  
市瀬 豊和

慶應ラグビーは、その挑戦の過程において多くのファンや地域の方々に支えられてまいりました。その恩返し的心も込めて、私たちは拠点とする横浜市・港北区と連携した地域貢献事業やラグビースクールの運営など新たな試みを始めております。企業が自社の利益のみならず、様々な社会課題の解決を目指す時代です。慶應ラグビーを通して地域や社会の皆様と双方向性のある活動を展開し、よりよい社会の実現の一翼を担いたいと考えています。

## スポーツを通じた 経済の活性化

テーマ 慶應ラグビーの強化

### 慶應ラグビー倶楽部として取り組む意義

未だ日本ラグビー界では、大学ラグビーの早慶明の伝統校が確固たる人気を誇る中、慶應の土台・基盤は貧弱です。慶應を強化することで、大学及び日本ラグビー界を盛り上げていきたい。

### 社会からの期待

スポーツと健康、医療、食、観光、ファッションとの融合が進行し、政府はスポーツの市場規模を15兆円に拡大する目標を掲げている。スポーツの有する経済的な力を国の成長に繋げてもらいたい。



慶應ラグビー倶楽部 理事  
一般社団法人 ジャパンエスアールCEO／サンウルブズ  
渡瀬 裕司

私が取り組んでいるサンウルブズの強化には良質なコーチング、練習環境や栄養管理の整備、優秀な選手の獲得が不可欠です。同様に塾蹴球部がこの先もトップチームで有り続けるためには、フルタイムコーチの増員、有望選手のスカウト、選手寮の整備などが急務となります。慶應ラグビーの充実は間違いなく、大学スポーツや日本ラグビーの活性化に繋がるものと確信しております。

## 人材輩出による 社会への貢献

テーマ 文武両道  
リーダーシップ  
グローバル人材の育成

### 慶應ラグビー倶楽部として取り組む意義

リーダーの育成は日本一という目標とともに慶應ラグビーに課せられた社会的使命である。タフな心身を兼ね備えた人材を一人でも多く社会に送り出したい。

### 社会からの期待

ボーダーレスな社会では言語や習慣の壁を突き抜ける突破力が必要だ。従来の体育会系のイメージを脱し、自ら考えて行動し、人々を牽引するリーダーが求められている。



慶應ラグビー倶楽部 理事  
株式会社ハーツユナイテッドグループ 代表取締役社長CEO  
玉塚 元一

大学4年の時、我々はハードワークを積み重ねて日本一の直前まで迫りました。文武両道を掲げつつ、勝利に執着する塾蹴球部の伝統があったからこそ、並大抵でない努力を継続できました。労苦をともにした仲間との信頼関係は強固で、強豪校に組織力で対応できたと思っています。これらの経験は、私が社会に出てからの様々な挑戦の根底に流れており、経営者として目の前の壁に真摯に、そして戦略的に向き合う姿勢の土台となっています。世界は凄まじいスピードで変化しています。これからの時代は、グローバルな視座や周囲を巻き込むリーダーシップを身につけた人材が求められていると感じています。

# 寄附の使途に関して

ご寄附頂く篤志に関しては、下記の使途を想定しております。



## 強化

大学ラグビーを巡る各チームの強化への取り組みは年々激化しており、塾蹴球部を取り巻く競争環境は一層厳しいものとなっています。限られたリソースで大学日本一を目指す蹴球部が心身両面で部員のポテンシャルを最大限に引き出せるよう、国内外からフルタイムコーチを招聘するなどより良い指導体制の構築、選手の強靱な体作りに欠かせないウエイトトレーニング施設など練習環境の充実、蹴球部専用の合宿所兼クラブハウスの新設、志が高く将来性豊かな受験生を確保するためのリクルーティング体制の確立等を念頭に強化を進めます。



**SDM**  
System Design and Management

慶應義塾大学大学院  
システムデザイン・マネジメント研究科

## 産学官連携

塾蹴球部は、大学院システムデザイン・マネジメント研究科（慶應SDM）スポーツシステムデザイン・マネジメントラボ（代表：神武直彦教授）の「スポーツラボ」と共同で、チーム力向上を目的としたシステムデザインやマネジメントの研究を進めています。特に、GPSやドローンといった最先端技術を活用したデータに基づく怪我の予防や戦略戦術立案、指導法の確立に向けた取り組みを実施しており、平成29年度には内閣府「先進的な宇宙利用モデル実証プロジェクト事業」に採択され、株式会社アシックスやNTTコムウェア株式会社などとも連携し、GPSを含む多様なデータの融合とその活用についての実証を行いました。その成果は、塾庭球部やホッケー部、外部チームにも活用されつつあります。今後も、蹴球部のノウハウ・人材・施設・データ等を活用した産学官の連携を発展させていきます。



## 国際交流

大学ラグビーでは2018年度から外国人留学生の出場枠が1枠増え、3選手の同時出場が可能となりました。この枠を活用する多くのライバル校とのしぎを削ることになります。塾蹴球部でも今後、外国人コーチの招聘及びその人脈を活かした海外とのコネクションの構築、そして将来的には慶應義塾で学び、体育会でラグビーにチャレンジしたいという留学生の発掘及びその受験サポート等を検討していきます。もちろん、強化という目的だけに囚われることはありません。部員の語学力やコミュニケーション能力の向上、海外チームへの短期派遣など、卒業後の社会人生活を見据えたグローバルな視野の拡大を目指していきます。



## 食環境の充実

他校がプロチーム並みの栄養管理態勢を構築する中、塾蹴球部も女子栄養大学上西助教授とその研究室に協力を得て、定期的な食事力講習及び2ヶ月に1度の栄養分析を実施しています。女子マネージャーの食事担当と上西研究室がプロチームに引けを取らない栄養管理システムを構築しています。現在の課題は、知識や情報ではなく実質的に費用のかかる食事の充実が急務となっています。選手は、主食・補食・リカバリー食を含め1日8食で、約6100Kcalのエネルギーを摂取します。昨年度は9539キロのお米を消費し、今年度は1万5千キロの消費を想定しています。このほか朝食のヨーグルトと納豆に各2万食、補食のパナナ1万本、サプリメントに約4万食等々、大量の食材が必要となります。強靱な体作りに欠かせない食環境の充実に一層力を入れていきます。





## 文武両道

塾蹴球部は伝統的に、勝利を追求しながら真剣に学業に取り組み、社会の範たる人材を多数輩出してきました。今年度の主将を務める古田京も医学部に所属しながら、限られた時間を有効に使ってチームを牽引しています。今後も文武両道を体現し、グラウンド内外で模範となれるような塾生の育成を目指します。また、実社会で活躍するOB・OGと学生がコミュニケーションする機会を多く作り、交流を活性化させ、通常授業では得られない学びの場も提供して行きます。学業でもラグビーでも一流を目指す活動を通し、慶應義塾が目指す「全社会の先導者」たる人材を今後も育成していきます。



## 安全管理の徹底

塾蹴球部は、選手の安全・怪我予防を第一に考え、日本スポーツ界トップレベルの安全管理体制を整えております。日本体育協会公認アスレティックトレーナー4名、学生トレーナー8名が在籍し、内科・脳神経外科専門のチームドクターと連携を取りながら、不慮の怪我に備え毎回の練習・試合に帯同しつつ、万が一の怪我の際は受傷の初期対応から受診・リハビリ・復帰まで万全のサポートをしています。また、日々の健康・疲労状態をチェックするシステムを導入。日吉キャンパスにある慶應義塾スポーツ医科学センターにご協力頂き、3カ月に一回、全選手の血液検査を実施するなど、安全に強化を進められているか定期的にチェックしております。また選手にも怪我の予防の重要性を理解させつつ、入学後は個別に状態を把握し、怪我をしない体づくり、コンタクトの基本スキルを徹底し、大学レベルの試合に十分な準備をさせてから実戦に参加させております。安全面と体の強化においては慶應高校・志木高校へS&Cコーチ及びメディカルトレーナーを派遣していることで、ベースアップが着実に図れています。今後も、これまで培った知見を活かしつつ、最先端の情報取得、慶應スポーツ医学研究センターとの更なる協業等、安全・健康管理においても常に日本一を目指し、他チームの模範になるような体制構築を目指していきます。



## 一貫教育

慶應義塾の一貫教育という特徴を活かした育成・強化を進めて行きます。すでに大学のグラウンドに一貫教育校の選手が月1回程度集まり、大学の金沢篤ヘッドコーチ及びS&Cコーチやトレーナーによる指導を受けられる機会を設けています。高校に至っては、S&Cコーチがほぼフルタイムで体づくりや、ケガのサポートを行っています。最近では、大学と高校、高校と中学で合同練習の機会を作り、選手の育成・強化及び指導者の交流をはかっております。今後、「KRCスポーツ・アカデミー」(仮称)を立ち上げ、成長期・ゴールデンエイジ期である小学生から中学生に塾蹴球部のスタッフが成長に応じた最先端のコーチングを提供する体制を構築中です。現状、大学のレギュラー多数が一貫教育校出身者であり、今後もこの慶應義塾の強みを活かすべく、指導者・選手同士の交流を深め、慶應義塾独自の選手育成を進めていきます。



## 社会貢献・地域貢献

塾蹴球部は、横浜市港北区と包括連携協定を締結している慶應SDMと共に、地域の小学生を対象にした「スマートスポーツ授業」を2017年から開催しています。これは、地域の小学生の運動能力の向上とスポーツへの関心を高めることを目的にした取り組みで、例えば、日吉台小学校でのタグラグビーの授業をより楽しく、わかりやすくするといったことに取り組んでいます。2019年のラグビーワールドカップ日本大会や、2020年東京オリンピック・パラリンピック、そして、その先を見据えたトレーニングやデータ活用についての公開講座やシンポジウムも開催しています。また、現在準備中のスポーツアカデミーなどをより進化させ、慶應ラグビーが長い歴史の中で積み上げたノウハウを蹴球部から社会に還元していきたいと考えております。日本ラグビーの更なる発展、そして社会をより良いものに変えていくことに貢献していきます。



お問い合わせ

一般社団法人 慶應ラグビー倶楽部事務局

東京都港区高輪 3-25-29

THE SITE ROOM-15

© 2018 Keio Rugby Club All Rights Reserved.

